

トビケラの仲間

トビケラの仲間の成長過程には、卵→幼虫→さなぎ→成虫の4つの段階があり、完全変態と呼ばれる。幼虫は、水中の大きめの石の裏に小石や砂粒で巣をつくる。



ウルマーシマトビケラ

シマトビケラ科 体長 幼 14mm 成 9～12mm

柳瀬川で見られるトビケラの仲間では比較的多い。腹側にエラがある。トビケラの仲間の成虫は小さめのガのような形態をしているが、羽には鱗粉がない。



ヒゲナガカワトビケラ

ヒゲナガカワトビケラ科 体長 幼 38mm 成 20～27mm

流れの速い浅瀬の大きめの石があるところに生息する。エラはない。



セスジユスリカ

ユスリカ科

体長 幼 10mm 成 6mm

幼虫はアカムシと呼ばれる。汚れた水に棲む。最近の柳瀬川ではほとんど見られない。成虫は蚊に似ているが刺さない。



マダラガガンボ

ガガンボ科

体長 幼 60mm 成 40mm

成虫は大きな蚊のような姿をしている。写真の幼虫は、いろは親水公園こもれびのこみちの湧水の水路にいたもの。一般にはガガンボ科の幼虫は、地上に生息しているもの(p.147に掲載)が多い。

